



東郷文弥節人形浄瑠璃保存会会長

インタビュー

木場岩利さん(80歳)

Iwatoshi Koba

3月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。まず、どのような感想を持たれましたか。

木場会長 報告を受けた時は、とてもうれしかったのですが、指定を受けた責任の重さから正直、困ったなあというのが第一印象でした。指定を受けたことがマスコミなどで紹介され、多くの方から喜びの声をいただきました。今まで頑張ってきた、本当に良かったと感じ、今後も東郷の浄瑠璃を継承していく大きな励みになりました。

現在のように上演できるまでの苦労はいろいろあったと思いますが。

木場会長 保存会を立ち上げて17年目になりますが、すべてがゼロからの出発でした。語り太夫役も三味線も太鼓をする人もいない。歌も演目も分からない。自分の幼少期からの記憶を掘り起こしました。台本のもとになる古文書を一字ずつ解読して、自分で作成した辞書を引き、読み上げ、妻(ミリス)が紙に書き込んでいくという地道な作業を続けました。

東郷の人形浄瑠璃は人形とともに足拍子を取りながら大きく踊るのが特徴ですが、振り付けについて教えてくださいますか。

木場会長 人形の遣い手が自ら踊らないと人形が生きた踊りになりません。「常盤御前雪の段」「鞍馬下りの段」など、人形の振りはずべて自分で考えました。大変な作業ゆえ、ときには私たちも弱音を吐くことがありました。しかし、保存会が続くかぎり、この人形浄瑠璃は残っていくんだという思いを胸に頑張ってきました。

人形浄瑠璃の魅力は

木場会長 人形に対して、自分たちの思いが伝わるのが楽しいです。語り太夫・三味線・太鼓・拍子木・人形の動き、すべての息が合っただけで完璧なものとなりますが、まだ、経験したことがありません。そんな奥の深さも魅力です。自分が人形浄瑠璃に携わってから61年目になります。昔の人から教えてもらった恩を忘れることはできません。これからも頑張つて伝承していきたいです。

今後の活動について

木場会長 本年11月に宮崎県都市での上演を予定しています。また、地元の子どもたちが、月2回「子ども人形浄瑠璃」として活動を行っています。将来、この子どもたちが中心となって、保存会を継承してくれたらうれしいですね。

東郷文弥節人形浄瑠璃 これまでの歩み



- 昭和9年 川添榮太郎が語り太夫と会長を兼務して活動
- 昭和46年 東郷町の無形民俗文化財に指定される
- 昭和55年 文化庁の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として選択される
- 平成5年 県芸術文化奨励賞(伝統芸能部門)を受賞
- 平成8年 子ども人形浄瑠璃を結成(会員13人)
- 平成16年 県無形民俗文化財に指定される
- 平成20年 3月13日、国の重要無形民俗文化財に指定される



传承人たち

子ども人形浄瑠璃

子ども人形浄瑠璃 リーダーインタビュー



東郷中学校 2年生
山口 由希奈さん

小学校4年生から人形浄瑠璃を始めました。演じていて楽しいところは、浄瑠璃の踊りの中で、『だんぎ』をすることで、人形に泣きを入れるところです。

でも、『だんぎ』は演じる中で最も難しいところだと思います。もっと練習して、

もっとうまくなりたいです。そして、かっこよく動けるようになりたいです。

*だんぎ：太鼓や三味線に弾みをつけて、足拍子を取りながら、人形とともに大きく踊るところ。古浄瑠璃の代表的な踊り方。

